



「内発的動機付け・学習エンジンから巻き起こす多様な探究と創造活動への提言」

学習理論に則った学習過程(※2)を設定し、その中で、多様な学習を目指しています。各段階での留意点は以下の通りです。

学びの始めに学習エンジンを

教師は、子ども達が共に学び合う場に教材を準備し、出会いを作ると同時に、子ども達の心に、高い好奇心と意欲の火を点します。これを内発的動機付け・学習エンジン(以下、学習エンジン)と言います。

学習エンジンから多様な探究へ

教師によって主体性を引き出すように工夫された教材に触発され、児童の心に学習エンジンがかかると、子ども達は、自ら気づきや発見を言葉にしていきます。学びの場に於ける試行錯誤と自己決定は、それを促し児童それぞれの多様な学習活動が展開されていきます。一般的に「アクティブラーニング」と云々されるのは、この段階からです。ここでの展開方法には多様な学習形態があるべきです。

教師と子ども達は互いの対話を通して、共感・共有していきます。教師が子どもの気づきに対して共有することは、その気づきの価値を認めフィードバック(形成的評価)することです。共有した事は、目標や課題となっている事(主には概念)への構築のステップになっていきます。

価値を構築し、深い学習へ

児童自らの発見や気づきは、教師、子ども達相互による対話によって構築が進んでいきます。しかしそこには教師が設定した(また教材そのものに含まれている)対立や矛盾、葛藤に行き当たります。子ども達は協働し、対立・矛盾を克服していきます。子ども達の協働と教師の支援により、対立や矛盾を克服することで、目標・課題としていたことは解決され新たな価値が構築されていきます。このように学習は深まり、より自ら課題を見つけ取り組んでいこうとする「第二の学習エンジン」となっていきます。

自らを振り返り、未来を見出していく

対話を通した協働的学びであっても、学びの成果は子ども達一人一人にもたらせられます。子ども達はそれぞれの発達段階なりに、今までの学びを振り返り、「どのような事が学びとなったのか、何が自分にもたらせられたのか」具体的に自己評価します。単なる「できた。できなかった」という結果の感想ではなく、今後の学習や学び方が何が付与されたのか、またどんな課題が生まれたのか見つけ出す事になります。

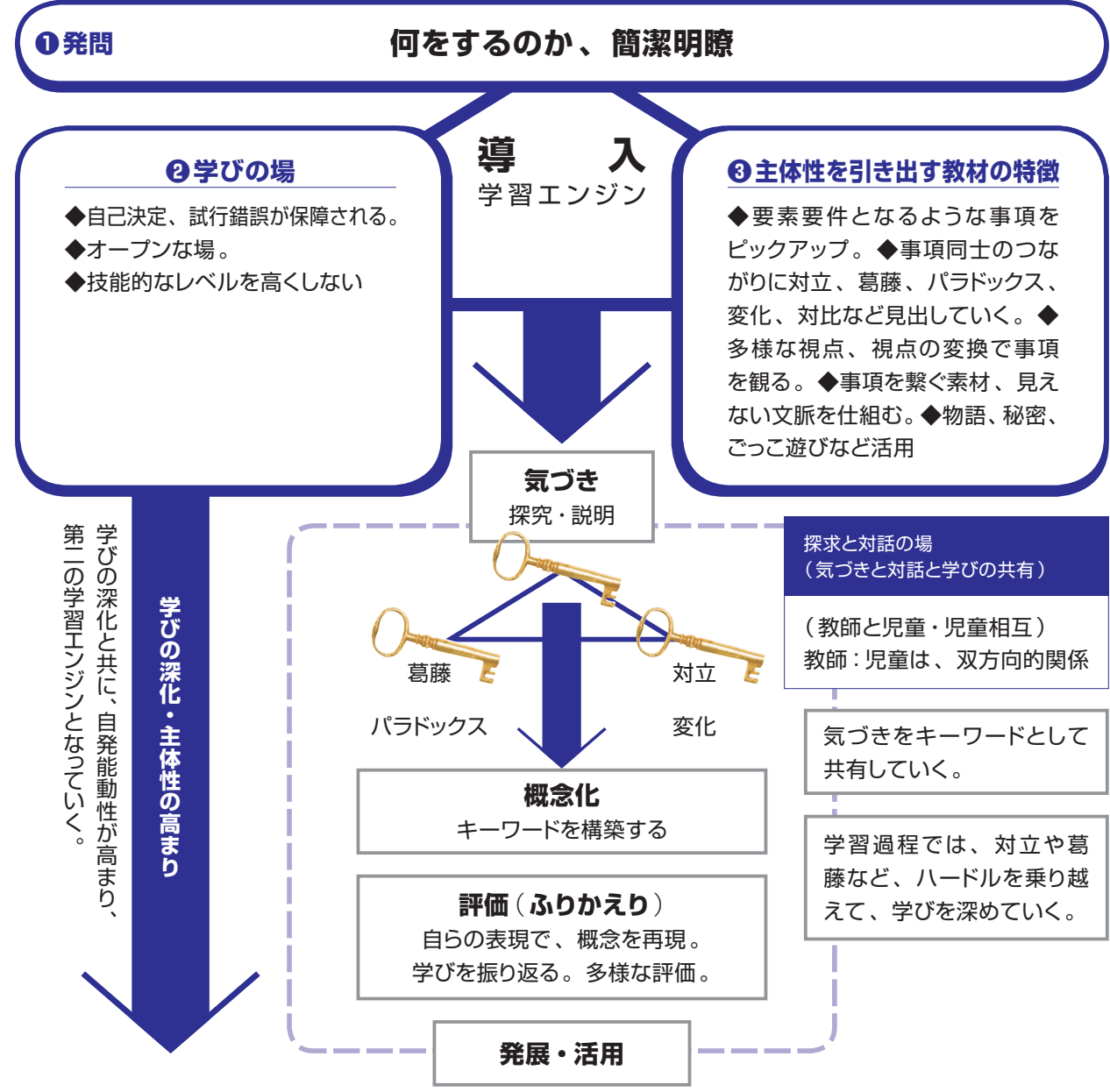
※2:ピアジェ、デューイから現在に至る構成主義的教育観、構築主義的教育観、体験を通して学びを深めていく科学の学習理論(5E、7E)で行っていく

学習エンジンから巻き起こす多様な探究と創造活動

学習エンジンと探究活動・アクティブラーニングの学習過程

学習エンジン(内発的動機付け)は教師の愛ある環境の下、
①効果的な発問 **②学びの場づくり** **③主体性を引き出す教材の特徴** によって、起動します。

安心・安全な環境



次 ページからは、提案する学習エンジンと、多様な探究・アクティブラーニングを実践した創造塾の事例です。それぞれの実践のポイントを分かりやすく表現するために、授業実践を土台としながら、授業中残すことができなかった画像資料については、後で編集し掲載していることをお断りしておきます。またアクティブラーニングについては、固定した方法を求めず、多様な活動を認めていきたいと思っています。ただ、探究学習もアクティブラーニングも、学びを創造して行く上で、以下の点に留意しています。

- ・その学びに自己決定による試行錯誤が保障されているか。(自発能動の観点)
- ・児童生徒の主体的な気づき・発見によって、学習が進んでいるか。(主体性の観点)
- ・教師・生徒相互の双方向的な対話によって、学びが深まっているか。(対話による深化)
- ・児童生徒自らが学びを振り返っているか。(メタ認知、形成的自己評価)